



祝祭日で休む日本 有休で休むヨーロッパ 意外に休まないアメリカ

日本は、付加価値を どう高めるか！

「日本はなぜ、これほど休みが多いのか」と海外のビジネスマンからよく聞かれます。長時間労働が社会問題になるほど休めないイメージが強い日本なのに、これはいったいどういうことでしょうか。

実は日本の祝祭日の日数は、諸外国と比べて群を抜いて多いのです。バカンス大国と呼び声の高いフランスが9日、米国が10日だが、日本は欧米勢より1週間以上長い17日です。アジア圏では、香港13日、中国11日、韓国10日と続きます。

この祝祭日の多さが、海外ビジネスマンの声になるのでしょうか。

対して有休休暇はどうでしょうか。フランスは有休付与数、消化数ともに30日と100%消化しています。総じてヨーロッパは、付与数も多く、消化も100%状態です。日本は付与数20日、消化数10日と50%です。(中小企業は、消化率はもっと低いと思いますが。)

ドイツは、土日約104日、祝日等約10日、有休30日でおおむね150日位休みます。そして1日最長10時間以上働かず、大抵のオフィスは午後6時にはガランとしています。日曜祝日の労働は原則禁止(商店も同じ)。それでもドイツ(\$44,549)の一人当たりの名目GDPは、日本(\$38,434)の116%と、生産性が高いのです。学ぶべき面があります。

日本の企業における製品・商品・サービスは、世界のレベルでもトップクラスと思いますが、その恩恵をうまく配分できず、余計な事にロスしているような気がします。

生活の基本的な要件として「衣食住」という言葉がありますが、加えて「労」を入れたなら、この部分が世界レベルに到達していないのでしょうか。

	1●祝祭日日数	2●有休休暇数			3●休暇日数合計
	日数(日)	付与数(日)	消化数(日)	消化率(%)	祝祭日+ 有休休暇消化数(日)
日本	17	20.0	10.0	50.0%	27
香港	13	14.3	14.0	97.9%	27
中国	11	5-15	—	—	—
米国	10	19.0	14.0	73.7%	24
韓国	10	14.6	7.0	47.9%	17
フランス	9	30.0	30.0	100.0%	39
ドイツ	9	30.0	30.0	100.0%	39
イギリス	8	28.0	28.0	100.0%	36
イタリア	7	28.0	21.0	75.0%	28
インド	6	20.0	15.0	75.0%	21

一人当たりの名目GDP(USドル)

米国	\$59,501	イギリス	\$39,734
香港	\$46,109	日本	\$38,434
ドイツ	\$44,549	イタリア	\$31,984
フランス	\$39,869	韓国	\$29,891